

三重県
移住
ガイド

さんじゃうきたね！
三重！

MIE



■発行

令和6年3月発行



■お問い合わせ先

三重県 地域連携・交通部 移住促進課
TEL.059-224-2420 FAX.059-224-2219
Email iju@pref.mie.lg.jp



三重県移住・交流ポータルサイト



目次

知って ○ 三重県ってこんなところ …… 03

行って ○ …… 04

三重へのアクセス
北勢エリア …… 04
伊賀エリア …… 06
中勢エリア …… 07
伊勢志摩エリア …… 08
東紀州エリア …… 09

住んで ○ …… 10

私たちの「さんじゅうまる」
移住者①(四日市市・岡本さん) …… 11
移住者②(伊賀市・高橋さん) …… 12
移住者③(松阪市・濱畑さん) …… 14
移住者④(志摩市・伊藤さん) …… 16
移住者⑤(尾鷲市・豊田さん) …… 18

三重で暮らす …… 22
三重で働く …… 26
暮らし体験 ↓ 下見のススメ …… 30
移住までのSTEP9 …… 32
市町相談窓口・三重暮らし応援制度一覧 …… 34
移住相談窓口 …… 34

知って 行って 住んで



日本のほぼ真ん中に位置する三重県は、南北に細長く、5つに分けられる地域それぞれに豊かな自然、豊かな食べ物、豊かな文化が溢れています。名古屋や大阪へのアクセスが良好な都市がある一方、海や山、川など自然豊かな地域もあり、ライフスタイルに合わせた暮らしができます。知れば知るほど、いいところ!! が増えていくことでしょう。

知って 三重県ってこんなところ



三重県の広さ

面積	5,774 km ²	東西 80km	南北 170km
人口	1,731,863 人		
海岸線	1,083 km	全国 8 位	
自然公園面積	208,477 ha	全国 3 位	
人口・令和5年4月1日現在			

三重県の気候

年間平均気温	16.9℃	東京都 16.6℃
年間日照時間	2,166 時間	全国 13 位
統計でみる気候指標のすがた 2023		



知って (know) 行って (go) 住んで (live)

知って (know) 行って (go) 住んで (live)

凡 例

- 主な国道、県道
- 自動車専用道路 (無料)
- 高速道路
- 近鉄
- 私鉄
- 新幹線
- JR

津市から京都市まで

道路	101 km	1時間 30分
鉄道	142 km	1時間 50分

津市から名古屋市まで

道路	70 km	1時間
鉄道	65 km	50分

津市から東京都区内まで

道路	425 km	5時間 30分
鉄道	435 km	2時間 30分

津市から中部国際空港まで

高速船	45分
-----	-----

津市から大阪市まで

道路	130 km	2時間
鉄道	125 km	1時間 30分

三重へのアクセス

行って 住んで

都会暮らしも田舎暮らしも
三重県ならかないます

東海地方と近畿地方の境に位置する三重県。名古屋や京都、大阪などの都市圏からの距離が近く、鉄道や車でのアクセスがよい。また、多くの観光客が毎年訪れています。南北に長い三重県では、さまざまな暮らしを可能にします。中京圏・関西圏へのアクセスが便利。北部では都市部に生活しながらも、自然と親しむ日々を実現できます。一方の南部は、2つの国立公園を有するなど自然がいっぱいで、多様な暮らしが可能な三重県で、さんじゅうまるの毎日を楽しんでみませんか？



行ってみよう

北勢エリア

中京圏へのアクセス良好
経済・産業の中心エリア

県北部に位置する北勢エリアは、高速道路や鉄道などが整備され、名古屋など中京圏へのアクセスが良いことから、人口の多い市町が集まっています。さらに、東海環状自動車道の全線開通に向けて工事が進められており、利便性のさらなる向上が期待されています。製造業などが盛んで経済的に活発でありながら、旧東海道路沿いには、古い町並みも残り、当時のしほりを感じながら、都市暮らしと田舎暮らしの両立が可能な地域です。



▲北勢圏と藤原島 (いなべ市) ▲住宅地の風景 (桑名市)



▲舞在所からの夜景 (鈴鹿市) ▲東員町公園 (東員町)



▲関宿祭 (関宿町) ▲中心市街地 (四日市市)



▲鈴鹿サーキット (鈴鹿市)



▲市民参加の体育祭 (木曽川町)



▲八王子祭り (朝日町)



▲高松海岸 (川越町)

行ってみよう

伊賀エリア

関西圏への通勤者も
歴史と自然に包まれて

特色を使えば、大田市街地まではわずか1時間足らずとアクセス良好。関西圏への通勤・通学する人も多く、ベッドタウンとしても知られています。自動車専用道路である名阪国道(国道25号)が東西に走り、新名神高速道路が付近を通ることから、交通の便に優れ、製造業などの企業が多く進出。このエリアには、忍術の流派「伊賀流」が伝わり、ゆかりの寺社をはじめ、当時の面影が残ります。また、盆地地形を利用した米や酒づくりが盛んです。



▲伊賀盆地 (伊賀市)



▲子ども忍者 (伊賀市)



▲田嶋大祭 (名張市)



▲上野天神祭 (伊賀市)



▲町並み (名張市)



▲赤目十八滝 (名張市)

行って

にじゅうまる!!

中勢エリア

行政の中心エリア
都市暮らしで自然も満喫!

人口約27万人の県都津市がある行政の中心地。高速道路や電車などの交通網も整備され、名古屋や関西エリアへのアクセスも便利です。一方、中山間部では清流や渓谷が美しい景観を織り成し、自然の恵みを生かした農業や林業、畜産業が盛んです。天皇に代わって伊勢神宮に仕えた斎王の宮・斎宮跡があるほか、日本三大商人である伊勢商人を輩出するなど、歴史が根づく中勢エリア。さらに、コネスコエコパークがあるなど自然も豊かで、さらなる地域活性化や観光振興に期待が高まっています。



▲中心市街地(津市)



▲耕業に従事する人々(松阪市)



▲大杉谷溪谷(大台町)



▲斎王まつり(明和町)



▲大紀町阿曾地区の風景(大紀町)



▲「おばあちゃん」の店(多気町)

行って

にじゅうまる!!

伊勢志摩エリア

歴史と自然あふれる
著名スポット多数

日本人の心のふるさととして崇敬を集める伊勢神宮をはじめ、リアス海岸が織り成す景観を楽しめる伊勢志摩国立公園など、県有数の観光スポットが集まるエリア。2016年には、先進国首脳会議(サミット)が開催されました。古くは「御食国(みけつくに)」と呼ばれていた歴史を持つなど豊富な海の幸に恵まれ、漁業や水産業、農業などが盛ん。独自の文化を育んできたことでも知られ、「鳥羽・志摩の海女漁の技術」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。



▲農産も盛ん(玉城町)



▲おかげ横丁(伊勢市)



▲SUPをする子どもたち(度会町)



▲漁港と移動販売車(南伊勢町)



▲サーフィン(志摩市)



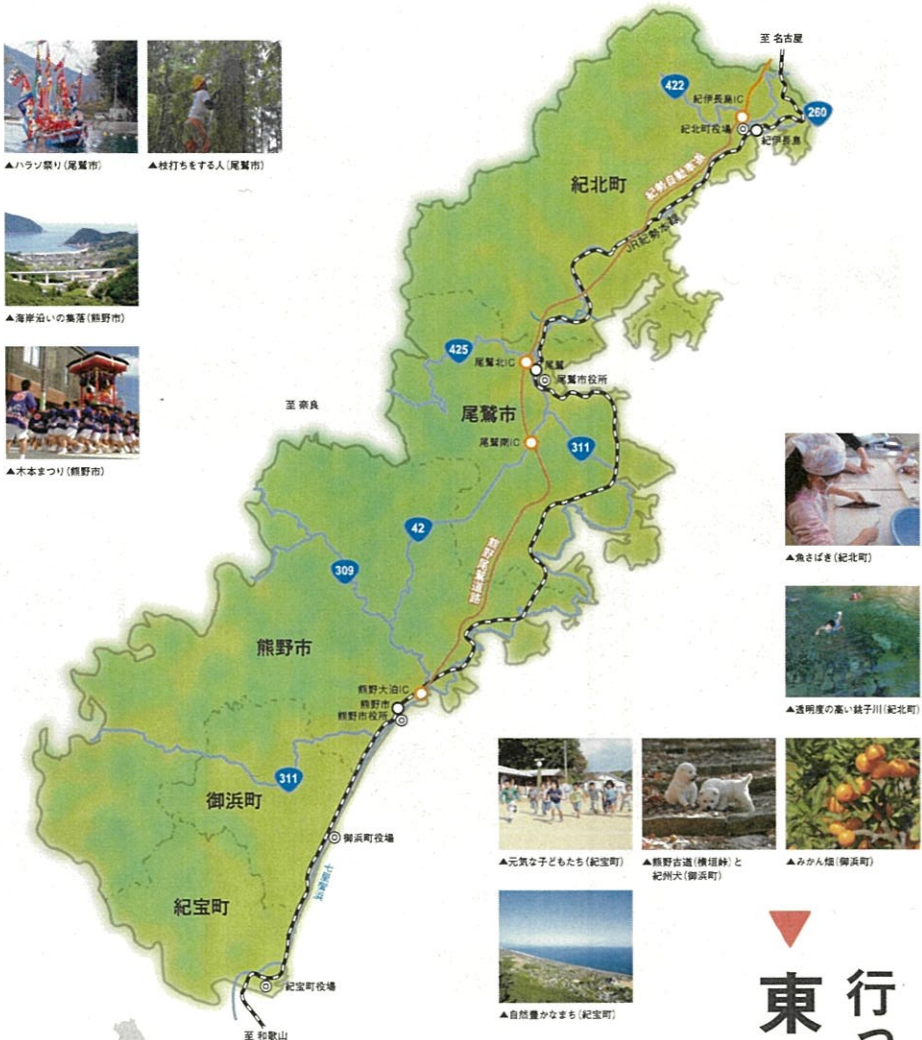
▲親子でワカメ漁(鳥羽市)



行って 東紀州エリア

自然に囲まれた
人情味ある温かなまち

熊野灘に面した県最南部では、漁業はもちろん、温暖な気候を生かしたミカン栽培が盛ん。ミカンは年間を通じて栽培され、その種類は、数十にも及びます。さらに、国内有数の多雨地域であることから、古くから林業や木材業も営まれ、「尾鷲ヒノキ林業」は、日本農業遺産に認定されています。山と海に囲まれ、食や祭り、民俗など独自の郷土文化が根づく東紀州エリア。人情味ある豊かなコミュニティが形成され、のんびりとした理想の田舎暮らしをかなえてくれます。



▲ハラン祭り(尾鷲市)



▲林打ちをする人(尾鷲市)



▲海岸沿いの集落(熊野市)



▲木本まつり(熊野市)



▲魚さばき(紀北町)



▲透明度の高い鏡子川(紀北町)



▲元氣な子どもたち(紀北町)



▲熊野古道(横道神)と紀州犬(御浜町)



▲みかん畑(御浜町)



▲自然豊かなまち(紀北町)

住んで



5組の先輩移住者に聞いた 私たちの「さんじゅうまる」

移住者インタビュー

近年、増加傾向にある三重県への移住者。「家族の将来を見据えて」「大自然に魅せられて」などその理由は、さまざまです。さんじゅうまるの暮らしをかなえた先輩移住者の日々をご紹介します。

（移住者インタビューの掲載は平成30年10月現在）



P.12 岡本さん



P.14 高橋さん



P.16 濱端さん



P.18 伊藤さん

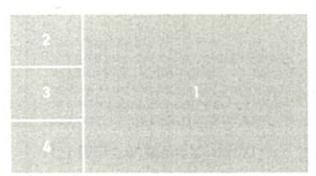


P.20 豊田さん

住んで

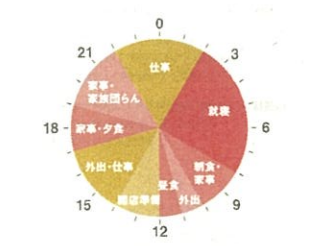
移住者インタビュー ①

おいしい食材と自然、温かな人に囲まれて
四日市でかなえた理想の子育て



- 1 店舗の目の前にある公園は、岡本さん一家のお気に入りのスポット。空き時間には、園内にある四日市市立児童館や、カラフルな大型遊具で遊ぶそうです。
- 2 のびのびとした環境での子育てを望んでいた英志さんにとって、都市でありながら自然もある四日市は理想の地。いちちゃんが生まれてからは自炊するようになり、生活リズムも大きく変わりました。
- 3 子育て、店舗運営、デザイン業と三足のわらじを履く英志さん。デザイナーとして、ロゴや名刺、ショップカード制作を扱うほか、WEBや映像なども手がけます。
- 4 店の看板メニュー「自家製ソーセージ」。素材選びから、熟成、調理までの全工程を英志さんが担当。三重県産の豚肉を使用した一品は、ワインとの相性抜群。

ある一日のスケジュール (亜希さん)



- 深夜まで働く英志さんが起床したら3人で朝食をとりながら家族団らんのひとときを過ごします。
- 昼食後は自宅から店に移動。英志さんといちちゃんは買い出しへ、亜希さんは店で開店準備を進めます。
- 子どもの就寝後が英志さんのワークタイム。デザイン作業をするほか、ウェブサイトや本を見て感性を磨きます。

ここが「住んで三重」!

- 海、山、温泉がすぐそこに**
都内で子育てをする友人は、「公共交通機関でのベビーカー利用に不便さを感じ、出かけるのが億劫になることもある」といいます。三重での暮らしは、車を30分走らせれば、海や山、温泉に気軽に出かけられるのがいいですね! 近隣スポットでは、湯の山温泉や四日市市ふれあい牧場がお気に入りです。
- 水や食べ物などのおいしさに感動!**
とにかく、水も食べ物もおいしい。米との相性がいいのか、県産米がおいしいと感じます。おいしい野菜が安値で手に入るのも、うれしいポイント。食材そのものの味がよく、味付けにも苦労しません。vetoでは、契約農家さんから仕入れた新鮮な野菜を提供しています。リジナルグッズに使用する玄米は伊賀産です。

夫の夢を支えたいと三重への移住を決意

「伊勢神宮と鈴鹿サーキットは知っていたけれど、移住前は三重がどこにあるのかも定かではなかった。移住5年目の今では、移住5年目の岡本亜希さん。夫・英志さんがオーナーシェフを務める「veto」のオープンを機に、四日市市にやってきました。現在は子育てをしながら、店舗運営をサポートするほか、本職のデザイン業に大忙しの日々を送ります。

亜希さんは、埼玉県出身。大学卒業後は都内にある電機メーカーで働き、インダストリアルデザイナーとして、機械製品の設計に携わっていました。2013年、鈴鹿市出身の英志さんと結婚。「三重県で飲食店を開きたい」という英志さんの夢をかなえるべく、亜希さんは移住を決意しました。

御食国ならではのおいしい食材を提供

vetoでは、フランスの田舎料理やワインを提供しています。「メニューには、新鮮な朝どり野菜をはじめ、菰鍋やさくらボックなど、三重ならではの食材を使用しています」と英志さん。料理ごとに異なる県産肉を使い分けるなど、素材の味を生かしています。亜希さんも、三重県産の食材が大好きで、「凝った味付けをしなくても、素材の味だけで十分おいしい」と話します。

仕事に子育てに大満足の三重暮らし

市内で月に1度開催されているマーケット「四日市の市」での出会いをきっかけに、四日市へ移り住んできた若い世代との交流も生まれ、地域活性化に向けた活動も見据えています。

「大きな遊具のある公園が近所にたくさんあり、車で少し足を延ばせば、動物と触れ合える牧場もある。のびのびと子どもを育てられる環境です」と三重暮らしを満喫しています。休みの日は、温泉などへ出かける岡本さん一家。「東京にいたときは、人混みを避けるため日中に出かけることは少なかったのですが、今は車を30分走らせれば、海も山も温泉だって、気軽に出かけられます。リフレッシュが上手にできるよになりました」と、日々の暮らしにも変化が現れているようです。

移住を機に、フリーランスのデザイナーへ転身。vetoのロゴ制作や店舗デザインを皮切りに、近年は地元飲食店からロゴなどの制作依頼が増えたといいます。「現在は東京に在籍する友人は、公共交通機関でのベビーカー利用に不便さを感じ、出かけるのが億劫になることもある」といいます。三重での暮らしは、車を30分走らせれば、海や山、温泉に気軽に出かけられるのがいいですね! 近隣スポットでは、湯の山温泉や四日市市ふれあい牧場がお気に入りです。

「移住を機に、フリーランスのデザイナーへ転身。vetoのロゴ制作や店舗デザインを皮切りに、近年は地元飲食店からロゴなどの制作依頼が増えたといいます。『現在は東京に在籍する友人は、公共交通機関でのベビーカー利用に不便さを感じ、出かけるのが億劫になることもある』といいます。三重での暮らしは、車を30分走らせれば、海や山、温泉に気軽に出かけられるのがいいですね! 近隣スポットでは、湯の山温泉や四日市市ふれあい牧場がお気に入りです。」

「移住を機に、フリーランスのデザイナーへ転身。vetoのロゴ制作や店舗デザインを皮切りに、近年は地元飲食店からロゴなどの制作依頼が増えたといいます。『現在は東京に在籍する友人は、公共交通機関でのベビーカー利用に不便さを感じ、出かけるのが億劫になることもある』といいます。三重での暮らしは、車を30分走らせれば、海や山、温泉に気軽に出かけられるのがいいですね! 近隣スポットでは、湯の山温泉や四日市市ふれあい牧場がお気に入りです。」

プロフィール



岡本英志さん、亜希さん、いちちゃん

英志さんが出身地・三重県で飲食店を開業するのを機に2013年、四日市市へ移住。亜希さんは、店舗運営、デザイナー、子育ての三足のわらじを履いています。



移住者インタビュー ②

地域に溶け込み、伝統産業に携わる
ゆったりと時が流れる古民家での暮らし

プロフィール



高橋健作さん、由加里さん

空き家バンク制度を活用し、2016年3月に伊賀市へ。健作さんは伝統産業である伊賀組紐の機械織に、由加里さんは内職で手縫いに携わります。

家族の時間を優先 実家に近い伊賀へ

「休日の朝、緑側にツアーを置いて、コーヒーとトーストを楽しみながら家族で過ごすのがお気に入り」と話すのは、高橋健作さん。由加里さん夫婦。入り口の格子に一目ぼれた、旧伊賀街道沿いの古民家に住んで半年。床を張り替えたり、壁に漆喰を塗ったりと、自ら手を加えながら暮らしています。

大学で出会った2人、健作さんの転勤を機に結婚しましたが、深夜まで働く日々を送ります。「将来子どもが生まれたとき、誇りを持って、自分の仕事のことを話さないのではと、葛藤していました」と健作さんは振り返ります。

ゆとりある生活と将来の子育て環境を考え、田舎暮らしを決意。ともに名古屋出身のため、実家に帰りやすい地域を候補とし

伝統の組紐が育む 伊賀への愛

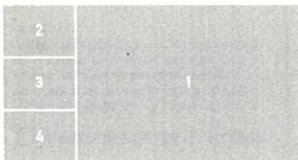
健作さんは、物件探しと就職活動を同時進行で進めたものの、伊賀市移住の決め手は「ずばり」「入」の移住コンシェルジュの方をはじめ、多くの人に親切にしてくださいました」と話します。

「新入りの気持ち」が地域に溶け込む鍵
当初は高橋さん夫婦にも、見知らぬ土地に住むという不安がありました。しかし、引っ越しの際、元の家主が一緒にあさつ回りをしてくれたこともあって、近所づきあいは円満。種やかな人柄で地域の人の親切心をますます受け入れられる高橋さん夫婦の心には、さ

「た」、由加里さんは微笑みます。敷地内の畑でも、近所の方が苗を植えてくれたり、手入れの方法を教えてくれたりと、近隣からの温かい心づかいに包まれながら暮らしをしています。

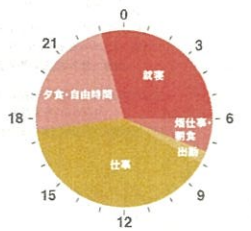
地域に溶け込むためには、「住んで」であることが大切。住まわせてもらう意識が大切。いまだに新入社員のような気持ちです」と健作さんは、アドバイスします。

移住前は三重県に対して、伊勢神宮やコンビニエンスストアといったイメージが強かった2人。現在は、「自然も豊かで、買い物にも困らない、便利で住みやすい地域」と、太鼓判を押します。伝統産業に携わったり、多くの人と積極的に関わったりしながら、充実した移住ライフを送っています。



- 2人の住まいは、空き家バンクの制度を利用して購入。母屋に離れ、裏、畑もある広い敷地の古民家に住んでいます。DIYの知識は設計士として活躍する先輩移住者から教わりました。
- 勤務先の社長も2人の子を持つ父親で、「子どもが生まれても大丈夫。家族だと思ってください」と歓迎してくれました。周りの人に変えられながら、昭和初期の貴重な機械を愛情を持って扱っています。
- 伊賀組紐は、多彩な色づかいが特徴。創業64年の伊賀組紐株式会社は、染色から製造までを一貫する市内で有数の機械織の組紐製造会社です。
- 自宅でも組紐を織む由加里さん。「まだ見習いの見習い」といい、師匠から指導を受けながら糸を組んでいます。締めやすく、身につけていても苦しくない、しなやかさを持つのが、手組みの魅力。

ある一日のスケジュール (健作さん)



畑のある高橋さん宅
今は一部しか利用していませんが
今後は野菜づくりも本格的に始めたいと計画中

畑が早く、規則正しい生活となり
体重が半年で20kg減少した健作さん
大学時代のスタイルを取り戻しました

由加里さんは、午前中にパート、午後から組紐
2日で1本のペースで糸を組んでいます
仕事は、2人でゆったり過ごします

ここが「住んで三重」!

自然と利便性を兼ね備えた、ほどよい田舎

8月の昼過ぎに夜は肌寒いほど。盆地特有の寒暖差が激しい地域だから、野菜や米がおいしい! 自然もありながら、商業施設もあり、名阪国道のインターにも近い。伊賀市からは、小一時間で大阪、京都、奈良、津、名古屋など、いろいろなところに行けます。お盆や大型連休の名産品の流通には驚きます(笑)

面白くて、親切な人が多い!

半年に1回、市が主催する移住者交流会に参加して、先輩から便利な制度や、DIYの知識を教えてもらったり、相談に乗ってもらったりしています。その後、家に遊びに行くこともありますが、面白い人が多く、もっとたくさんの人と交流したいと思っています。移住前より人づきあいが活発になりました。

住んで



移住者インタビュー ③

豊かなライフスタイルを実現した田舎暮らし
自然に囲まれた自慢の我が家で日々を満喫

空き家を自ら改築
自然を楽しむ毎日を

一 志強野イナターチエンジから車で30分、のどかな風景が広がる松阪市柳原町に住まいを構えているのが、演劇啓之さんです。自慢の我が家は、約2年かけて自身でリフトオムムた築80年の平屋。外壁の黒色ガ目玉を引く母屋のほかに離れが2つあり、中央には手つくりの休憩スペースがあります。枯山水を施した和風庭園には、石灯籠を設置、お気に入りという緑側に腰を下ろせば、心がホッと落ち着きます。

「荒れ果てて放置されていた我家を、自身でリフォーム。お寺をイメージし、友人のアドバイザーも参考にしながらくりました。ご近所の方からは「よくぞここまでよみがえせたものだ」とお褒めの言葉をいただきました」と我が

東京本社の大手製紙会社に勤め、滋賀県や岐阜県など各地を転々としました。

交通の便が発達し、買い物や飲食に何の不自由もない都市での暮らし。何か物足りなさを感じていた最中に発生したのが、2011年

の東日本大震災でした。各地でライフラインが寸断される中、自力で生きる大切さを痛感。災害に遭遇しても自分で生きていける力を身に付けなくてはならないと、自

地域と関わってききました。野菜の「おすそ分け」を受けたり、家のメンテナンスを手伝ってもらったりと、地域の温かさを日々実感しているようです。

分の価値観が変わりました」と当時を振り返ります。

そんな中、頭をよぎったのが、趣味のツリーリングで幾度となく訪れた柚原町の美しい情景でした。古き良き田舎の風景に吸い寄せられるように、濱畑さんは長年勤めた会社を退職し、移住を決意。町内には聖町時代のお墓が残るなど地盤が固い。さらに沢水を生活用水として用いており、地震などの緊急時にも困らない点も移住の決め手となりました。

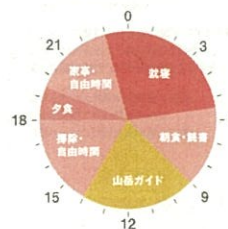
2012年に移住。持ち前のコミュニケーション力で、積極的に

**活性化に向けて
地域の魅力発信に注力**

移住後ももなく、三重県認定のグリーンツーリズムインストラクターの資格を取得。現在は休日を利用して、約1300年の歴史を持つ、修験道の霊場「伊勢山上」のガイドをライフワークとしています。

超過疎化が進む柚原町。人口80人のうち、80代以上が8割を占めている。人を呼び込むために、いろんなことにチャレンジしていきたいと夢は膨らみます。

ある一日のスケジュール



- 目覚めは町内に鳴るサイレン
読書などをしながら
朝のひとときをゆったりと過ごします
- 月に数回はガイドの仕事で伊勢山上へ
9時から山に入り、帰郷は14時頃
ガイドのない休日は県内外の山や海へ
- 食事は自炊が基本。地産地消を心がけ
調味料も、地元産を使用しています
庭で鳥糞をつくることも

ここが「住んで三重」！

☒ 食べ物がおいしい

都会に暮らし始めた頃はお酒を飲んだり外食をたたりで腎臓を悪くしましたが、こっちに来てからはほぼ自炊ですっかり健康になりました。野菜は近所の方が育てている無農薬のものを購入しています。松阪といえば松阪牛で知れていますが、豚肉や鶏肉もおいしいですよ。松阪市飯高町の特産品「とどきまき」で肉と野菜を炒めるのがお気に入りです。

☒ 何もない「贅沢さ」

松阪市街地から車でたったの30分というアクセスの良さにも関わらず、自然に溢れ、昔ながらの農村風景が残っているのが柚原町の魅力です。最初は、物音一つない静かさに寂しさも少し感じましたが、今ではそれが贅沢に思えます。イノシシやシカが家の前にひょっこりと現れることも、すっかり慣れました(笑)



濱畑啓之さん

ツーリングで立ち寄った松阪市柚原町に魅了され、2012年に移住。現在は鈴鹿市のホンダディーラーで働くかわら、伊勢山上のガイドも務めます

住んで

移住者インタビュー ④

豊かな自然の中でのびのびと
子育てには家族一緒に時間を持つことが一番！

■プロフィール



伊藤 健児
伊藤 敏宏、喜代子さん、
宏太郎くん、慎太郎くん

敏宏さんが三重県農業大学校で学んだ後、2009年、夫婦で志摩市に移住。専業主婦を使用したマイホームで、笑い、声、話し声が聴えない暮らしをしています。

家族みんなのために やりがいのある仕事を

海水浴場から徒歩3分。自宅は、玄関横に「シャワー」を備え、まるで海の家のよう。志摩市浜島町でイチゴ農家を営む伊藤敏宏さんは、妻、喜代子さんの実家近くにマイホームを築きました。子どもたちは恵まれた自然環境の中、のびのびと、時に厳しく育てられています。

敏宏さんは大阪府高槻市出身。学生時代を若手車大船で過ごし、後輩である喜代子さんと結婚しました。いつか田舎で暮らしたいとの夢を抱きつつも、大阪の食品会社に就職。終電で帰宅するのが当たり前で、前日の多忙な日々を送っていました。

「勤務でやりがいも感じられず、このままでは家族を幸せにできないのではなか」と考えた敏宏さんの頭に浮かんだのは、学生時代のアルバイト「椎茸栽培やホタテ養殖に従事し

長男誕生を前に 両親の住む浜島へ

2009年、長男、宏太郎くんの誕生を前に、移住の実現に向けて動き出した伊藤さん夫妻。まずは就農。フアで見つけ、三重県農業大学校へ入学し、自身の大好きなイチゴで生計を立てようという1年間、しっかりと技術を学びました。農業大学校で出会った同級生7人とは、今でも年に1度集まる仲です。

移住先の決め手となったのは、喜代子さんの実家が浜島町にもイチゴを生産する人がおり、農地を紹介してもらえたこと、また、子育てしやすい環境を考えたときに、親が近くにいれば助けってもらえることも多いと考えたからでした。

夫婦2馬力が鉄則 家事に境界線はなし

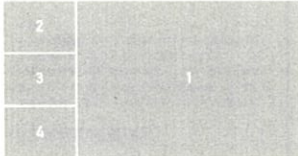
イチゴを育てる9年。「もつといいイチゴを食べてもらいたい」と、試行錯誤は続きます。異常気象にもすぐ対応できるよう、日頃から生育状況をしっかりと把握しています。「イチゴ不作の夢に、飛び起きました。それでもサリマンはもう無理」と苦笑い。喜代子さんも「以前は仕事のことを聞いても話せなかったが、今はこちらが聞かなくても話してくれそうです」と微笑みます。

閑散期は、子どもとの時間を大切に、スケジュールを組み立てる敏宏さんと、看護師として働く喜代子さんの間に家事育児の境界線はありません。子どもが寝てからは、夫婦で地酒を嗜むそう。「おいしいものが身近に

あると、新鮮なものが並ぶ直売所などを活用しています。

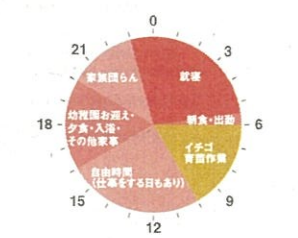
宏太郎くんが通う浜島小学校は、1クラス10・20人と少人数。先生との距離が近く丁寧な指導を受けられると前向き。塾の代わりに親が教えれば、いと積極的な子どもも勉強もみえます。「挑戦したい」ということを見つけられるように、私たちがの仕事で、学力をつけるべきであるのも親の責任と話し、競争心を身につけるべく、宏太郎くんにはさまざまな模試を受けています。

イチゴの苗は露地栽培。手はかかるものの、作物の力を存分に引き出す伊藤さんの手法は、子育てにも通じる。このことがあります。「オン・オフを自己管理できるので、学校行事や遊び、勉強と、子どもとの時間が増えました」と笑みを浮かべます。



- 1 1つは木の家の家という長年の願いを実現したマイホームは、3年前に完成。農産物のスペースに、ヒノキを柱に、木の質感を生かして無垢のまな使用しています。2階は太い梁をむき出しにした構造。窓からは穏やかな美濃湖を望む。庭の景色が広がります。
- 2 暑い夏の間に最盛期を迎えるイチゴの苗づくり。苗の良し悪しが、その後の生育に大きく影響するため、管理のしやすいハウスで行うのが主流ですが、敏宏さんは露地で育てています。農地は全部で1983㎡。
- 3 日差しが入り込む中庭は喜代子さんお気に入りの場所。病院勤務で夜勤もありですが、夫婦で協力し家事育児を分担しています。
- 4 真っ赤に熟してから収穫。出荷と販売が同時進行なのは、おいしいイチゴを届けたいという思いから。栽培は天候に左右されますが、生物系の大学で学んだ知識と実習から、さまざまな問題を解決してきました。

ある一日のスケジュール (敏宏さん)



出資シーズンは毎日長時間との闘い。寝る間を惜しんで働きますが、園芸期には平均6時間睡眠が原則。

夏の育苗期間は、午前中に作業をすませ、午後は家事や子どもとの時間を確保。繁忙期と閑散期では生活時間が大きく変動。

夕方から夜は、家事育児タイム。習い事として働く喜代子さんのために、夫婦の協力体制が必要。

ここが「住んで三重」!

移住者にも優しく、子育て環境も充実

浜島町はかつて漁業が盛んで、人の出入りに慣れているので、親切で丁寧な対応が受けられます。志摩市の待機児童はゼロ。医療費も中学卒業までは無料です。自然と身近に接して成長していくのは大切なこと。海岸や砂浜、のびのびと遊ばせています。海が近すぎると潮風が吹くから、掃除は大変ですが(笑)。

就農サポートも親身になってくれる

三重県農業大学校で、とても安い費用で農業を学べることを知り、1年間、イチゴの栽培を勉強。就農場所を探していたときに、親戚に相談に乗ってくれたのが、若原市浜島町道のイチゴ産地会長です。農地も紹介していただけたので、志摩市への移住を決めました。就農については、県の農業改良普及センターや市役所の農林課にも助けてもらいました。

住んで



移住者インタビュー ⑤

まちの温かな包容力に支えられて
飲食店や古書店、イベントの企画にチャレンジ

■プロフィール Profile



東紀州
エリア
豊田宙也さん

地域おこし協力隊として、飲食店オープンに挑戦を受け、2014年に尾鷲市に移住。協力隊の仲間や住民と地域活性化に取り組んでいます

地域おこし協力隊として
飛び込んだ漁師町・九鬼

波静かな入江を眼前に、瓦屋根が並ぶ集落を狭い路地がたぐく尾鷲市九鬼町。ブリ漁が盛んな風待ち港として栄え、一時期は3000人が暮らしていました。しかし十数年前、全ての飲食店がシャッターを下ろし、人口は500人へと減少。漁業従事者の減少や高齢化がまちの経済にも響いています。

2014年、このまちに地域おこし協力隊として赴任した豊田宙也さん。任期は終了しましたが、引き続き九鬼に住んでいます。大学・大学院の専攻は哲学。コミュニティ運営に興味を持ち始めたとき、地域おこし協力隊の募集で、「飲食店がなくなってしまうまちに新たな集いの場をつくる」企画を知ります。三重県には祖父の実家もあり、「これ何かの縁と飛び込みました」。

「集落を元気に」の思いが
食堂を運営する原動力

2014年、地元の男女20人が「外から来た人にゆくり休んでもらえる場所をつくらう」と、食を通じた活性化に立ち上がり、協力隊として仲間に加わった豊田さんは、店舗の改修から運営までをサポート。「当初、僕は魚も捌けなかったし、料理もできなかったんです。男性チームは主に店舗を改装。天井や壁を塗り替え、窓際にヒノキ板のカウンターを取りつけました」と豊田さん。海の景色を生かした、食堂「網干場」ができあがりました。

地元のお母さんたちが「手間加えた豪快な料理は、新鮮な素材を生かして、おいしく、無駄なく」という食の基本が貫かれています。遠方からもたくさんの方が訪れるようになった網干場。「九鬼を元気にしたい」という思いがまちの活性化につながっています。

新しいマッチングで
漁村暮らしの楽しさを

豊田さんは今、網干場の新たな展開を模索しながら、自身の暮らしや活動について考えています。その一つが古書店「トンガ坂文庫」です。築80年以上の空き家を改修した店内には、約2000冊の古書がずらりと並びます。開店のきっかけは、「網干場に人が滞在できる場所が欲しい」と感じたこと。若い人たちが集う場所をつくりたいという思いもありました。「九鬼を無理に観光地にする必要はなく、興味を持ってくると人と地元の人がつながるといいのかな」と、その実現に向けて取り組みます。ときには、学生と一緒に地域の課題を探り、解決策の提案を行っています。

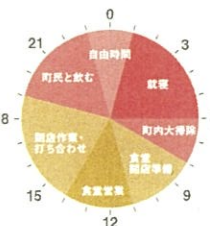
訪れた人の興味を深め、九鬼とながら仕組むくくりとして手がけるのが、「漁村×学」です。哲学や建築学、教育学といったテーマを掲げ、講演会などを企画して漁村の可能性を探り、人材の誘致とネットワークを生み出そうとしています。それらの企画を一度きりのイベントに終わらせないために、「尾鷲ヒト大学」の設立にも発展。「漁村に学び、漁村で学ぶ」場づくりを持続性のあるものにするため、同世代の仲間と準備をしています。

「最初は、仕事として来ている感覚でしたが、地域の人と交流するうちに、地元の人の目線や物事を考えるようになりました」と豊田さん。九鬼を拠点としながら、外からの視点も広く持ち、新しい風を吹かせています。



- 児童書や推理小説、詩集など、市民や知人から借り受け、豊田さんの私物も並ぶ「トンガ坂文庫」。「トンガ」は地元で「大黒屋敷を広く」という意味。九鬼の人は豊田さんの石畳の板を「トンガ板」と呼びます。
- 網干場は「食を通して、集いの場を創りたい」という思いでプロジェクト。地元有志と結成したチームで運営しており、今はイベントスペースとしての活用も考えています。
- 「漁村×学（ぼんそんがく）」として、人気漫画家を尾鷲に呼んでトークイベントと「こどもマンガスクール」を開催。豊田さんは進行役を務めました。
- まちからは種々かきかき九鬼を見え、網干場の仕入れに関わるようになり、九鬼漁港にもときどき顔を出すようになった豊田さん。漁港にいる仲間や漁協の関係者とも関係を持っています。

ある一日のスケジュール



- 食堂のオープンは土曜・日曜イベントが入ると打ち合わせなど1日の流れはガラリと変化
- 豊田さんは「トンガ坂文庫」のオーナー運営体制は共同で東京から移住してきた友人や住民が店番に協力
- 夜は地域住民と集うことが多いですが豊田さんを訪ねて東京から人が来ることも

ここが「住んで三重」!

人に紹介したい魅力がたくさん

「外から来てもいい、連れて行くところがない」と地元の人は知っていますが、食べ物や人、暮らしがよいなど、まちには紹介したいものがたくさんあります。九鬼には、よき者を受け入れる包容力があるのです。2年目は町内会会員を任せました。祭りや風習などのしきたりや教えを知らずながら、住民との距離を縮めていきました。

ライブやイベントも自分です!

ライブやイベントなどのために、都会へ行くのは交通費がかかります。それなら自分で企画をするしかない。九鬼は、人口が約500人、まちのサイズがちょうどいい規模。都会より生活コストは低減し、下がるので、音楽や芸術などに傾注できる機会をつくれる団体の仲間がいます。これまでに何度か開催していますが、来る人も良さを感心してくれています。



移住先の住まい探しをサポート!

空き家バンク

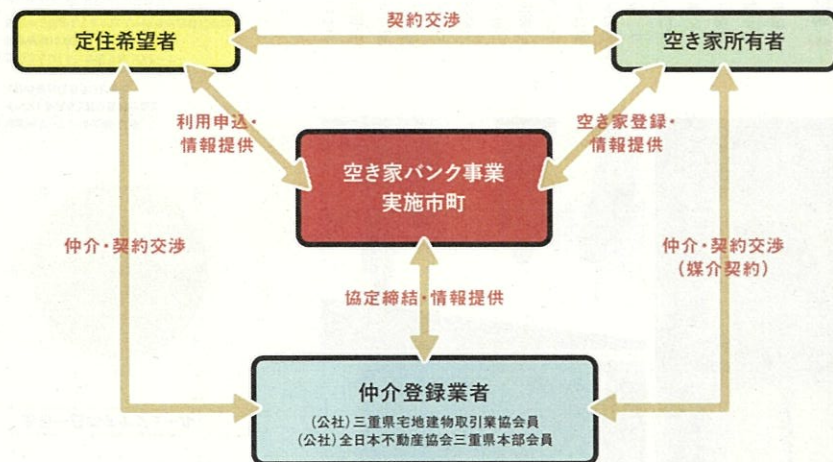
空き家バンク事業実施市町

県内全市町で実施

いなべ市・桑名市・四日市市・鈴鹿市・亀山市・東員町・木曽岬町・菰野町・朝日町・川越町・伊賀市・名張市・津市・松阪市(飯南・飯高・嬉野の一部地域)・明和町・多気町・大台町・大紀町・伊勢市・鳥羽市・玉城町・志摩市・度会町・南伊勢町・尾鷲市・熊野市・紀北町・御浜町・紀宝町

利用イメージ

利用イメージ図はあくまで一般的なもの。各市町で制度を運用していますので、詳細についてお問い合わせください。



県内の不動産情報

空き家バンク以外にも、「公益社団法人 三重県宅地建物取引業協会」や「公益社団法人 全日本不動産協会 三重県本部」のウェブサイトから物件の検索ができます。

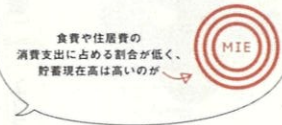


移住後の暮らしをイメージ

三重県民のおさいふ事情

収入と支出

●1世帯あたりの1カ月間の実収入(勤労者世帯)と消費支出(2人以上の世帯)



▶実収入

▶消費支出

三重県 **60.7** 万円 全国 60.5 万円 三重県 **29.5** 万円 全国 27.9 万円

	三重県	全国平均
食糧費割合(対消費支出)	24.8% (41位)	27.2%
住居費割合(対消費支出)	5.2% (40位)	6.6%
光熱・水道費割合(対消費支出)	6.5% (45位)	7.7%

物価

●消費者物価地域差指標

全国平均が100とすると……

三重県 **99.3** 東京都 104.5

ちなみに… ●百貨店・総合スーパー数(人口10万人あたり) 全国**18**位(138店)

貯蓄

●貯蓄現在高(1世帯あたり)

三重県 **1,448** 万円 全国 **19** 位 全国平均 1,450 万円

●一人あたりの県民所得 三重県 **312.1** 万円 全国 **14** 位

●パートタイムの給与(1時間あたり)

男性 三重県 **1,355** 円 全国 **31** 位

女性 三重県 **1,261** 円 全国 **7** 位

住居

●持ち家比率(対居住世帯あり住宅数)

三重県 **72.0%** 全国 **9** 位
東京都 45.0%

●民間賃貸住宅の家賃(1カ月3.3㎡あたり)

三重県 **3,608** 円 全国 **36** 位
東京都 8,795 円 全国 **1** 位

家賃は東京の半分以上なんです!



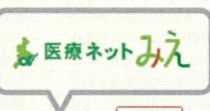
※出典はいずれも「統計でみる都道府県のすがた2023」



もしもの時に！

三重県救急医療体制図

- 凡 例
- ◎ 第三次救急医療施設
 - 第二次救急医療施設
 - 公立・公的病院など (○□を除く)
 - 休日夜間急患センター
 - × 小児救急医療拠点病院
- (令和5年6月1日現在)



ウェブサイトをご覧ください



受診の際、条件にあった医療機関を検索したり、今診てもらえる救急医療機関を検索できたりするので、緊急時にも安心です。

困ったときも安心だね！



子ども医療費助成制度対象範囲

県内すべての市町において、入院や通院で医療費助成が行われています。なお、所得制限や自己負担金が生じる場合がありますので、詳細は市町にお問い合わせください。

	入 院	通 院		入 院	通 院
津市	15歳年度末	15歳年度末	東員町	15歳年度末	15歳年度末
四日市市	15歳年度末	15歳年度末	菟野町	15歳年度末	15歳年度末
伊勢市	15歳年度末	15歳年度末	朝日町	15歳年度末	15歳年度末
松阪市	18歳年度末	18歳年度末	川越町	18歳年度末	18歳年度末
桑名市	18歳年度末	18歳年度末	多気町	15歳年度末	15歳年度末
鈴鹿市	15歳年度末	15歳年度末	明和町	15歳年度末	15歳年度末
亀山市	15歳年度末	15歳年度末	大台町	15歳年度末	15歳年度末
尾鷲市	18歳年度末	18歳年度末	玉城町	15歳年度末	15歳年度末
熊野市	15歳年度末	15歳年度末	度会町	15歳年度末	15歳年度末
鳥羽市	18歳年度末	18歳年度末	御浜町	18歳年度末	18歳年度末
いなべ市	15歳年度末	15歳年度末	紀宝町	18歳年度末	18歳年度末
志摩市	15歳年度末	15歳年度末	大紀町	18歳年度末	18歳年度末
伊賀市	15歳年度末	15歳年度末	南伊勢町	18歳年度末	18歳年度末
木曽町	18歳年度末	18歳年度末	紀北町	18歳年度末	15歳年度末

(令和5年3月現在)



子どもが豊かに育つ三重をめざして

三重で楽しい子育てライフ

三重県では、結婚や妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つ三重をめざして、子育て支援の充実や、男性の育児参画推進などに取り組んでいます。

三重での子育てライフを楽しんでみませんか？



県内の子育て情報冊子



県内各地の
応急診療所
ガイドを掲載

令和4年から変わった
育児制度も解説

三重県で
遊べる施設も紹介





漁業

Fishery

漁業といっても多種多様。南北に長い三重県では、北部の伊勢湾と南部の熊野灘でとれる魚も漁業もまったく異なります。まずは三重県の漁業や漁業就業、移住についての情報をウェブサイトなどで集め、海で働くステップにつなげてください。

▶就漁へのステップと支援事業

1 就漁相談

◆オンライン漁師育成機関「みえ漁師Seeds」の受講
・県内の漁業紹介動画や座学講座動画を見ることができ、若手漁業者の生の声が聞けます
「みえ漁師Seeds」ウェブサイト

みえ漁師Seeds

2 体験

◆各地で行われている漁師塾などの体験プログラムに参加



3 就漁準備

◆就業促進研修事業(三重県農林水産支援センター)
・短期研修助成
・長期研修助成
◆長期研修支援制度(水産庁)・次世代人材投資(準備型)資金の給付(水産庁)

4 就漁

◆沿岸漁業改善資金<経営等開始資金>(三重県)
・新たに漁業経営を開始しようとする者に経営開始資金を無利子で貸付
◆漁業経営改善制度<新規就業者型>(三重県)
・新たに漁業経営を開始してから3年未満の者が、漁業経営の改善計画を作成し、認定を受けることで、資金の融通や補助事業による支援を受けられる制度

Memo 漁師塾で「漁師という生き方」を学んでみませんか?

「漁師塾」は、漁協などが立ち上げた就業希望者のための研修の場で、漁業や漁村のことを深く知るための座学や現場での技術研修などが実施されています。実施期間や募集内容などはそれぞれ異なりますので、詳しくは三重県漁業担い手対策協議会に問い合わせいただくか、ウェブサイトをご確認ください。

三重県漁業担い手対策協議会ウェブサイト

あしたの漁師応援サイト三重

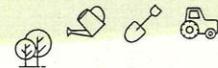
※漁師塾のことや、三重県内の漁業のこと、漁業の家族情報などを発信中

《Voice!》 おすすめは雇用型



腕一本で稼ぐ独立自営漁師に憧れる方は少なくありませんが、地域に地盤がないとなかなか難しいものです。漁師として働くには、漁村の一員になること、漁船や漁具をそろえること、ルールを守って魚をとる技術を磨くことなど、クリアすべきステップがいくつもあります。そこでおすすめなのが、「定置網漁業」や「船びき網漁業」など漁業にまず就職し、雇

用型漁師として地域になじみながら独立自営漁師をめざすパターンです。この方法であれば、安定して収入を得られるとともに、漁業について教えてもらえたり、漁船や漁具のそろえ方を相談できる身近な知り合いが増えることから、結果的に独立自営漁師の近道となります。



農業

Agriculture

最近では、定年退職後に自給的な農業を始められる方や、都市生活を切り上げて就農される方など、多彩な方々が新規就農されています。三重県では、U・Iターンにより新規就農をめざす皆さんの思いを実現するための受け入れ体制づくりに積極的に取り組んでいます。

▶就農へのステップと支援事業

1 就農相談

◆就業相談窓口での相談
◆県農業大学校への入校相談
◆農林漁業就業・就職フェアでの就職相談
◆無料職業紹介所での相談



2 体験

◆就業促進研修事業(三重県農林水産支援センター)
・短期研修助成
・長期研修助成
◆学生による農業体験の実施
・県内の農業経営隊のもとで10日以上農業体験



3 就農準備

◆農業大学校での技術・経営の実践的研修
・一年課程、二年課程
◆就業準備資金の交付(年間150万円を最長2年間)
◆みえ農業版MBA養成塾(2年課程)
・「農業をビジネスとして展開できる企業家」、「農業法人のビジネスマネージャー」などを志し、自らがビジネスプランを描ける経営センスを持った人材を育成
・先駆的な農業法人などで働きながら学ぶ場を提供
・産学官が連携し、質の高いプログラムを提供

4 就農

◆新規就農者の重点支援
・就農5年目までの新規就農者対象
◆簿記・経営分析講座の実施(経営発展支援事業)
◆施設・機械などの整備補助(経営開始資金の交付(年間150万円を最長3年間))
◆青年等就業資金の貸付
◆雇用型法人などの人材育成支援(法人などに対する支援)
◆雇用就業資金の交付
・雇用就業資金の研修経費助成(最長4年間)
・新法人設立に向けた研修経費助成(最長4年間)
・次世代の経営者の育成に向けた研修経費助成(最長2年間)

◆みえの就業サポートリーダー制度

・サポートリーダーのもとで技術習得に向けた実践的研修
・農地や住居の確保、地域への溶け込み支援

《Voice!》 三重でWell-being(ウェルビーイング)な暮らしを見つけた!



東紀州 エリア

■移住者プロフィール

福田大輔さん、なおみさん

家族4人(本人、妻、長男、長女)と犬6匹

神奈川県横浜市→熊野市(2016年)→御浜町(2020年~)

移住を考えたのは、都会で暮らして、どこか居心地の悪さを感じていたからです。最初は熊野の山の方に移住し、しばらくして、農業を生業にしたいと考え始め、野菜も頭にあったのですが、この辺りは「みかんの産地」なので、どうせなら「みかんをやりよう」と。その後、サポートリーダーの元で2年間の研修を経て、御浜町に移り、2020年に独立しました。農業は大変なことも多いけど、地元の先輩方に教えていただきながら、日々、試行錯誤しながらやっています。他の農家さんもライバ

ルというよりは、一緒に産地を盛り上げる同志という感じの関係が良いところだな。僕は生き物が好きなので、植物と向き合う日々が幸せで、そして奥が深く正解のない農業という仕事に魅了されて、夢中で走り続けています。忙しい中でも、ふと目の前に広がる自然豊かな風景を見ながら、この暮らしがくれた「今までの人生になかった幸せ」を噛み締めています。最近、息子が「ボクもお父さんみたいにみかんをやるのかな」とふと聞いているのを聞いて、何だか嬉しくなりました。



お問い合わせ

新規就農の相談窓口

▶(公財)三重県農林水産支援センター(経営・担い手支援課) TEL.0598-48-1226
▶三重県漁業担い手対策協議会 TEL.059-228-6670

三重県の漁業について

▶三重県農林水産部(水産振興課) TEL.059-224-2606

お問い合わせ

新規就農の相談窓口

▶(公財)三重県農林水産支援センター(経営・担い手支援課) TEL.0598-48-1226
▶三重県農林水産部(担い手支援課) TEL.059-224-2354
▶(一社)三重県農業会議 TEL.059-213-2022
▶三重県農業大学校 TEL.0598-42-1260



相談

Consultation

移住するにあたって気になるのが、仕事のこと。安定した生活のためには、働くことが重要になってきます。三重県は農林水産業などの第1次産業だけでなく、自動車産業などのものづくり産業や、サービス業も多く、魅力的な企業がたくさんあります。

▶どんな仕事があるの？三重県の「おしごと」事情

三重県の北中部では、四日市市や鈴鹿市を中心に、先端技術を駆使したもののづくり産業や、化学コンビナートなど、多くの企業があります。一方、県南部は、山・川・海に囲まれ、農林水産業などの第1次産業のほか、観光や宿泊などのサービス業が盛んです。

三重県では、ワーク・ライフ・バランスの実現や働き方改革に積極的な企業の登録表彰を行い、その優れた取組を県内に広めています。ぜひ就職のヒントにお役立て下さい。「みえの働き方改革推進企業」で検索！



1 おしごと広場みえ

おしごと広場みえは三重県の津駅に隣接するアスト津3階にあり、就職をめざす若者の方にさまざまな支援を行っています。

おしごと広場みえならではの県内の優良企業情報のご紹介のほか、経験豊富なアドバイザーが、就職に関する相談などを親身になってお手伝い。新卒応援ハローワークもありますので、県内企業の求人検索や紹介状の発行も可能です。また、大阪で三重県へのU・Iターン就職に関する相談も行っており、毎月2回予約制で出張相談を行っています。

おしごと広場みえは、みなさんの就職を応援しています！

おしごと広場みえ



information

おしごと広場みえ

●開館日時/平日の9:00~18:00
第1・第3土曜日の11:00~17:00
(就職相談のみ)
●住所/三重県津市羽町700
アスト津3階
●アクセス/JR・近鉄津駅隣接
●TEL/059-222-3309
●Zoom等によるオンライン相談可

information

みえU・Iターン就職相談 in関西

●開館日時/第2・4水曜日
(祝日年末年始除く)11:00~16:00
●住所/大阪府大阪市北区梅田1-11-4
大阪駅前第4ビル8階 三重県関西事務所内
3日前までに専用Web予約ページ
(左部二次元コード)または電話で
ご予約ください
●TEL/059-222-3309
●Zoom等によるオンライン相談可

注目情報

三重県で働きたい方を応援します。
「みえの仕事マッチングサイト」には
三重県内の求人情報が満載！

みえの仕事マッチングサイト



Memo

東京圏から「みえの仕事マッチングサイト」を通じて就業・移住された方には、移住支援金が支給される場合があります。
詳しくはこちらへ

三重県移住支援金



林業

Forestry

三重県には37万haの森林があり、県土の3分の2を占めています。林業はこの広大な森林を支える重要な仕事です。自分が手入れた森林が成長していく姿を見る喜びは格別です。認定林業事業者(注)に就職すれば、「緑の雇用」制度によりさまざまな技術研修を受けることも可能です。

▶林業Q&A 三重で林業を始めたいあなたの疑問にお答えします！

Q▶ 林業ってどんな仕事ですか？

A▶ 木を植え、下刈りや間伐などをして長い年月をかけて木を育て、収穫期に伐採して利用し、またそこに木を植えるというサイクルを繰り返すのが林業の基本です。この中で、チェーンソーや刈払機といった動力機械を扱ったり、高性能林業機械を操作したり、苗木を育てたり……と、その内容は幅広いものとなっています。

Q▶ 林業に必要な資格はありますか？

A▶ 林業に必要な資格は多岐にわたります。例えば、業務でチェーンソーや刈払機といった動力機械を扱うためには、労働安全衛生規則に基づく講習(安全教育や特別教育)を受講する必要があります。この他にも、重機類を操作するための特別教育や技能講習など受講すべき講習などが複数あります。これらの講習などを修了していなければ就職できないことはありませんが、既に修了していれば就職に有利です。なお、これらの資格は就職後に「緑の雇用」研修の中でも取得することができます。

必要な特別
教育の例

▶伐木などの業務に係る特別教育
▶刈払機取組作業員に対する安全衛生教育
▶車両系建設機械(整地・運搬・積込・掘削用)運転技能講習 etc……

Q▶ 林業を始めるには、どうすればよいですか？

A▶ まずは、森林組合などの林業事業体に就職することから始めてください。三重県では、(公社)みえ林業総合支援機構や林業事業者が(公財)三重県農林水産支援センター主催の「三重県農林水産就業・就職フェア」にブースを出展し、就職相談を行っていますので、このような場を活用して林業事業者の情報を収集する方法などがあります。

《Voice!》 自然の中で働きたい、それが林業だった



中 野
マサヒロ

■ 移住者プロフィール

前田 健作さん

千葉県から松阪市へ移住

元々自然科学が好きで、関東の理系大学を卒業後、大学院でも土壌学を専攻していましたが、兄が警察官だったということもあり同じ道に進みました。しかし、仕事が忙しく、都会での生活にも違和感を感じていたため、次第に自然の中で働きたいという思いが大きくなっていきました。
そのころ、ちょうど三重県で農林漁業就業・就職フェアが開催されていることを知りました。そこにブースを出展していた沖中造林株式会社から話を聞き、社長の「ぜひ来てほしい」の声で、三重県への移住を決意しました。



住居は会社が探してくれました。家賃や物価も都会に比べると安く、家庭菜園を楽しむスペースも十分あり、近所の人からも野菜や鹿肉を頂くことがあるため、経済面でも困ることはありません。仕事についても残業がなく、週末の休暇もしっかり取れるため、趣味の釣りを思う存分楽しめています。林業の魅力は、山の環境を知ることができることです。実際に



山へ入ると、シカの食害や山崩れの状況など、リアルな環境問題も目の当たりにします。そのため、今自分何ができるのかを考える機会にもなりました。木を伐採したり苗木を植えるという「業」を行いながら、自生している広葉樹を大切に育てる活動も会社が応援してくれており、日本の自然を守れるのも我々の仕事だなと感じています。

お問い合わせ

新規就業の相談窓口

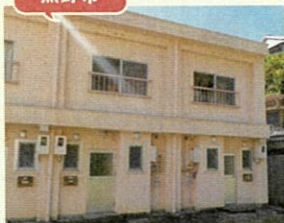
「林業への就業相談全般」について
三重県の森林・林業について
「緑の雇用」について

▶(公益社団法人)みえ林業総合支援機構
▶三重県農林水産部(森林・林業経営課)
▶三重県森林組合連合会

TEL.059-261-4760
TEL.059-224-2991
TEL.059-227-7355

(注)認定林業事業者とは、「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づいて、知事から改善計画の認定を受けた事業者をいいます。

熊野市

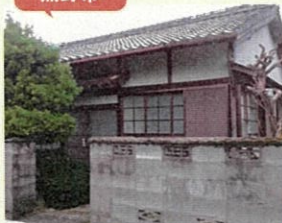


📍 まちぐらしの家

●住所/熊野市木本町
●お問い合わせ先/熊野市長公室
●TEL/0597-89-4111 (内線317)
●FAX/0597-89-5501

熊野市の市街地に立地している住宅です。徒歩5分～15分圏内にコンビニやスーパーがあり、仕事や住居などを探するための長期滞在につけて。車で30分ほどで海山川の自然を感じられるエリアに行くこともできます。この住宅を活用して、一緒に熊野市ですむ場所、働く場所をさがしませんか？

熊野市



📍 うみぐらしの家

●住所/熊野市新鹿町
●お問い合わせ先/熊野市長公室
●TEL/0597-89-4111 (内線317)
●FAX/0597-89-5501

熊野市の海岸エリアの移住体験ができる住宅です。熊野市がどんなところか知っていただく短期滞在から、仕事や住居などを探するための長期滞在まで、ニーズに合わせた利用ができます。きれいな海水浴場が徒歩5分ほどの場所にあり、この住宅でまずは田舎暮らしを体験してみてください。

尾鷲市



📍 長期移住体験住宅「みやか」

●住所/尾鷲市九鬼町
●お問い合わせ先/移住相談窓口
おわせ暮らしサポートセンター
●TEL/0597-37-4010
●E-mail/owasegurashi@gmail.com

移住体験住宅「みやか」は、人口400人あまりの小さな漁村集落・尾鷲市九鬼町にあります。「田舎暮らしを体験してみたい」「尾鷲に住みたいと思っているけど、滞在しながら家探しや仕事探しをしたい」というあなたのために、尾鷲市では田舎暮らしを体験できる移住体験住宅を用意しております。

大台町



📍 大杉谷暮らし体験施設

●住所/多気郡大台町久豆
●お問い合わせ先/特定非営利活動法人大杉谷自然学校
●TEL/0598-78-8888
●FAX/0598-78-8889
●E-mail/info@osugidani.jp

大杉谷は大台町の最奥部にある全国有数の水質を誇る宮川沿いに広がる地区です。吉野熊野国立公園への玄関口であり、素晴らしい自然に恵まれています。また、地域には昔ながらの暮らしの知恵を伝えてくださる地域の方がお住まいです。自然や地域の知恵を学ぶ体験学習も多数実施しています。ぜひ、一度、大杉谷に遊びに来てください。

松阪市



📍 田舎暮らしお試し住宅

●住所/松阪市飯高町宮前
●お問い合わせ先/地人の里協同組合
●TEL/0598-46-0208
●FAX/0598-46-0223

柳田川・高見山地に代表される豊かな自然を味わいながら、この地域ならではの風土・田舎文化に触れてみませんか？三重の木材を使用した木造住宅を1カ月以上2カ月以内で利用できます。道の駅飯高駅まで徒歩5分！平成30年7月、柳田川の河川敷に幼児でも安心して遊べる川遊び場が整備され、親子でも楽しめます。

移

住に際して、住みたいと思う地域を訪ねることは大切なポイント。実際に下見をして、移住への不安を解消すれば、地域への理解も深まります。移住を考えたまずは「下見」や「お試し」でその後の暮らしをイメージしてみましょう！

下見のススメ

暮らし体験



＼三重の暮らしを体験できる施設がたくさんあります！／



📍 三重の里 いなか旅のススメ

美しい三重の里。この里の恵みを生かした、山歩きや川遊び、里の散策、そして田植えや稲刈りなどの農業体験、四季折々の味覚狩り、地域ならではの料理体験といった五感で楽しめさまざまな「体験」は、大人も子どもも関係なく、訪れた人の心を豊かにします。

「三重の里いなか旅のススメ」では、そんな美しい里での営み、心を豊かにする「体験」の数々を紹介しています。さあ、三重の里いなか旅で心豊かな体験を！

●お問い合わせ先/三重県農山漁村づくり課
●TEL/059-224-2518
●E-mail/nozukun@pref.mie.lg.jp

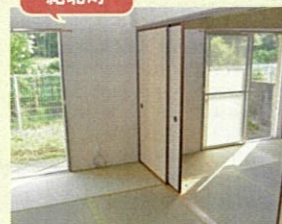
三重の人や暮らしとつながる
きっかけをお届けします！📍 三重の人や暮らしとつながる
コミュニティ「日々三重」

「日々三重」は、三重でまちづくりや一次産業などの様々な分野で活躍されている方々とつながることができるオンラインコミュニティです。インターネットでは得られない三重での暮らしやおすすめスポット、先輩移住者の体験談などの情報のほか、地域でのお手伝いなどの地域と関わるきっかけとなる情報も掲載しています！また、三重での暮らしを体験することができるイベントも実施しており、暮らしを体験してみた方々の感想も見ることができます。ぜひ、お気軽にご参加ください！

●お問い合わせ先/三重県移住促進課
●TEL/059-224-2420
●E-mail/iju@pref.mie.lg.jp



紀北町

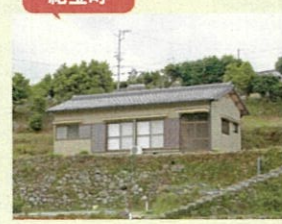


📍 きほくコマツバラ

●住所/紀北町船津
●お問い合わせ先/紀北町企画課西係
●TEL/0597-46-3113
●FAX/0597-47-5908

紀北町での暮らしを体験してみませんか？集合住宅の1部屋を改装した体験住宅を準備しました。最大3か月までの利用が可能です。車がなければ少し不便なところですが、紀北町を体験したい場合はぜひご利用ください。体験住宅以外にも短期滞在に利用できる補助金がありますので、お問い合わせください。

紀宝町

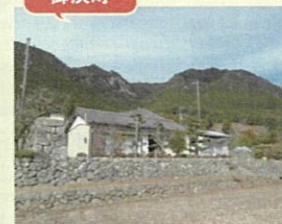


📍 紀宝町お試し住宅

●住所/南牟婁郡紀宝町高岡
●お問い合わせ先/紀宝町企画課西係
●TEL/0735-33-0334
●FAX/0735-32-1102

田舎への移住を検討している方のために、町内の住宅を無料(※)で貸し出し、お試し生活をいただく取組を行っています。申込方法など、詳しくはお問い合わせください。利用対象者は、紀宝町に移住や定住を考えている方。期間は、1泊2日～6泊7日。※交通費・食費・消耗品にかかる費用などは利用費負担

御浜町



📍 ウェルカムハウス御浜

●住所/南牟婁郡御浜町大字阪本
●お問い合わせ先/御浜ローカルボ移住・交流サポートデスク
●TEL/05979-9-1654
●E-mail/info@kokoterrace.com

「移住を迷っている」「地域の雰囲気や人柄が知りたい」あなたに、必要用品が全て整った「移住希望者用お試し住宅」で、まずは1日だけでも暮らしを体験しませんか？日本唯一の「風伝おろし(朝霧)」が美しい尾呂志地区の一軒家を貸切でご利用いただけます。期間は、1泊2日～1週間程度。1泊あたり1棟貸切で1,000円。